秋　田　市

梵天長根遺跡

—秋田変電所増設に伴う緊急発掘調査報告書—

1991.3

東北電力株式会社秋田支店
秋田市教育委員会

序

わたしたちの生活に欠かせない電気の使用量は、生活関連需要を中心に依然として根強い増加傾向にあります。当社では、皆様に良質で安定した電気をお送りするため、発電所をはじめ送電線・変電所・配電線などの建設や保守にたゆみない努力をつづけております。

その一環として、このたび皆様のご協力によりまして、能代市に能代火力発電所を建設中であり、この発生電力を275キロボルトの送電線（大潟幹線）で秋田市下新城地内の秋田変電所へ送るため、秋田変電所の増設を計画いたしました。

しかし、計画予定地には梵天長根遺跡が所在することから、*秋田市教育委員会と協議を重ねた結果、工事着手前に発掘調査を実施することになったものです。

本報告書はその発掘調査をまとめたもので、文化財保護へのご理解と研究資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

最後に、調査にあたりご指導、ご協力をいただいた秋田市教育委員会文化振興課をはじめ、地元作業員、土地所有者、その他関係機関の方々に衷心より感謝申しあげます。

平成3年3月

東北電力株式会社
理事
秋田支店長　大　関　盛　善

目　　次

序

例言

調査の概要……1

調査に至るまでの経過……1

調査期間と体制……1

調査の方法と経過……1

遺跡の位置と地形・地質……4

遺構と遺物……7

検出遺構……7

出土遺物……9

まとめ ……14

例　　言

1．本報告書は秋田市金足片田字鴻坂及び金足吉田字捨り沢に所在する梵天長根遺跡の発掘調査報告書である。

2．本報告書は菅原俊行の助言を得て、安田忠市が執筆・編集した。

3．遺跡の地形・地質は「土地分類基本調査　地質・表層地質・土じょう　秋田　経済企画庁総合開発局国土調査課　1966」を参照し、調査区層序を付け加えた。

4．遺構の平面図及び土層断面図中のＰは土器（片）、Ｓは石（礫）を示す。

5．発掘調査による出土遺物・実測図・写真・その他は秋田市教育委員会が保管する。

調 査 の 概 要

調査に至るまでの経過

東北電力株式会社秋田支店は、能代市に建設中の能代火力発電所の発生電力を供給するため、秋田市にある秋田変電所の増設を計画した。しかし、計画予定地には梵天長根遺跡（秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書　1989年3月　秋田市教育委員会）が存在していることから、秋田市教育委員会に遺跡範囲確認調査を依頼し、今後のことを検討することにした。

秋田市教育委員会は、平成2年1月に遺跡範囲確認調査を実施し、発掘調査面積を確定した。そして、東北電力株式会社秋田支店と工事計画の変更や、当該遺跡の保護等について協議した。しかし、工事計画変更は不可能であることと、着工時期が迫っていることなどから、4月24日より発掘調査を実施し、遺跡を記録保存することにした。

調査時期と体制

調 査 時 期　平成2年4月24日～6月7日

調査主体者　東北電力株式会社秋田支店

調査担当者　秋田市教育委員会

調　査　員　菅原俊行、西谷　隆、安田忠市（秋田市教育委員会　文化振興課）

調査協力員　高橋順一郎

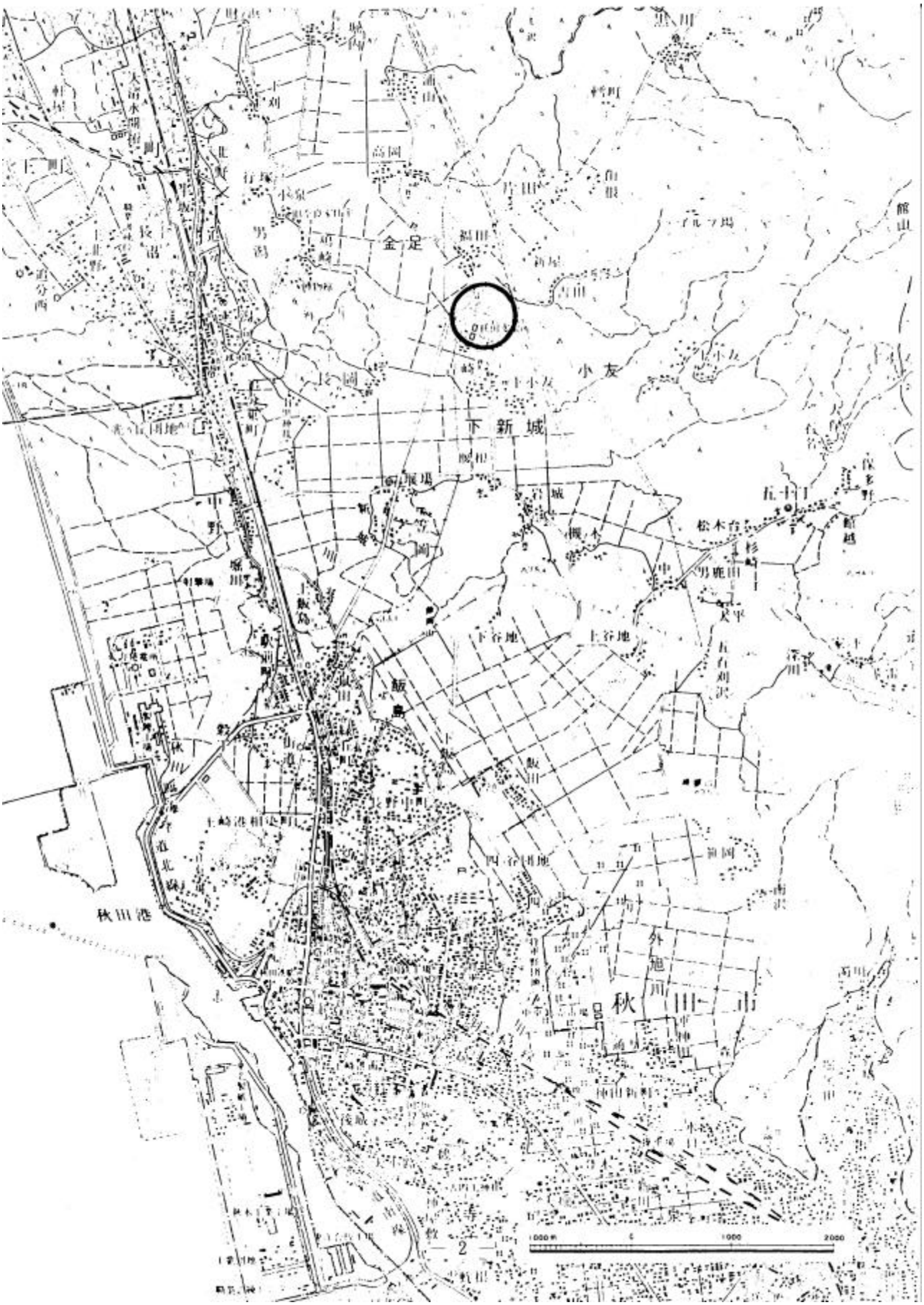
調査作業員　斎藤テツエ、佐藤ヒデ、佐藤サダ子、斎藤ハナ、佐藤和子、佐藤エチ、渡辺ヨリ、石井ユリ子、渡辺けを子、佐藤リエ、千蒲ヤエ、石井ちよえ、船岡京子、佐藤キナ、佐藤トミエ、佐藤美智子、佐藤秋子、佐々木ナツ、佐藤チエ子、佐藤依子、千蒲喜美恵子

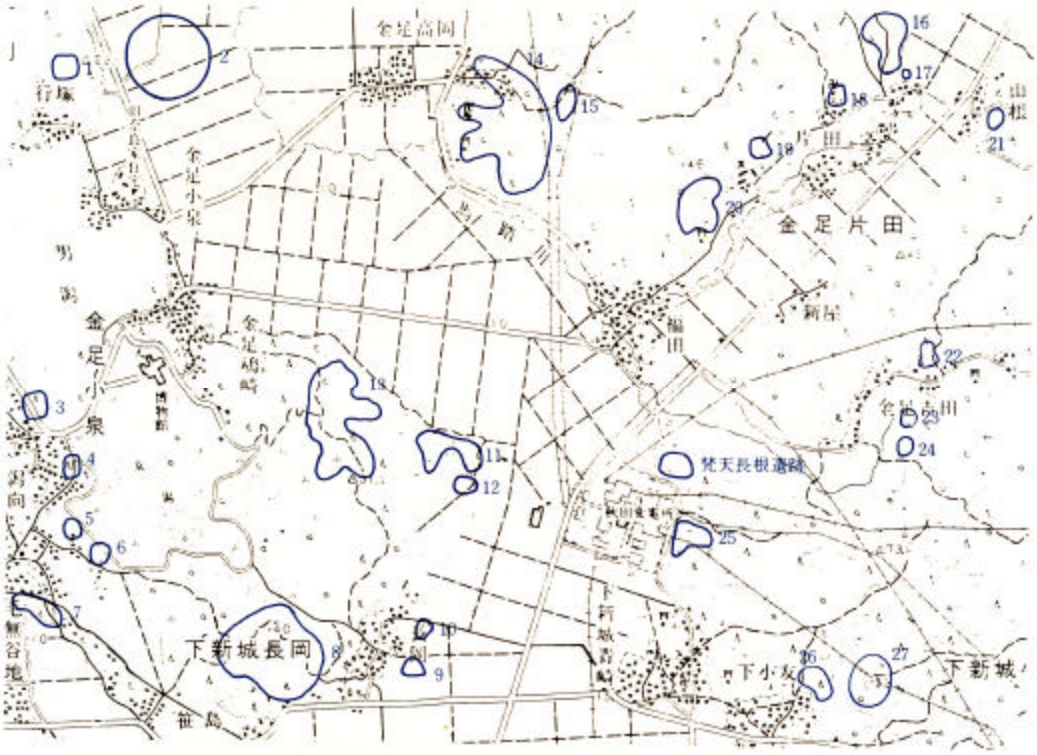
調査の方法と経過

調査区に任意の原点を決めて東西南北（磁北）に基準線を作り、調査区全体に大グリッド（40×40 m）を設定し、さらにその中に小グリッド（4×4 m）を設定して単位グリッドとした。大グリッドは1～9、小グリッドは東西（X軸）に算用数字（1～10）、南北（Y軸）にアルファベット（A～J）を配し、その組み合せで遺跡名、大グリッド、小グリッドの順に呼称することとした。

発掘調査は4月24日～6月7日の日程で実施し、調査面積は2,300 ㎡である。

調査区にグリッドを設定し、土層観察用のベルトを残して第1層（表土）、第2、3層（遺物包含層）を掘り下げる。平担面は少なく、北側が斜面となっている。遺構・遺物は主にこの北斜面からの検出である。遺構は土壙17基、土器埋設遺構1基の検出で、他の遺構は認められなかった。遺構精査後は写真撮影、地形測量を実施し、発掘調査を終了した。


金足
小友
下新城
五十目
松木台
秋田港
秋田市
1000m
0
1000
2000



第２図　周辺遺跡分布図

周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	種別	時代	遺構・遺物
1	高田	秋田市金足下刈字高田	遺物包含地	中世	珠洲系中世陶器
2	細入	〃　〃　〃 字細入他	〃	奈良・平安	須恵器・土師器・赤褐色土器
3	潟向Ⅱ	〃　〃 小泉字潟向３	〃	縄文（晩期）	縄文土器（晩期）
4	〃　Ⅲ	〃　〃　〃　〃	〃	弥生	弥生土器
5	耳取Ⅰ	〃　下新城長岡字耳取87―４	〃	〃	〃
6	〃　Ⅱ	〃　〃　〃　〃	〃	縄文	縄文土器
7	迫分駅東	〃　〃　〃 字毛無谷地	〃	縄文・奈良・平安	縄文土器・石鏃・須恵器・赤褐色土器
8	長岡館	〃　〃　〃 字長岡	城館	中世	主郭・鞍郭・帯郭
9	長岡	〃　〃　〃　〃	遺物包含地	奈良・平安	須恵器・土師器
10	熊野田	〃　〃　〃 字熊野田	〃	縄文・平安	石鏃・赤褐色土器
11	竹子山Ⅰ	〃　金足鳥崎字箱館	〃	縄文・奈良・平安	石匙・須恵器・土師器
12	〃　Ⅱ	〃　〃　〃　〃	〃	奈良・平安	須恵器・土褐色土器
13	箱館	〃　〃　〃　〃	城館	中世	
14	高岡館	〃　〃 高岡字路沢	城館・板碑	〃	主郭・帯郭・空堀・板碑・五輪塔
15	二本松	〃　〃　〃 字二本松	遺物包含地	奈良・平安	須恵器・赤褐色土器
16	片田	〃　〃 片田字待入	〃	縄文（後期）	縄文土器（後期）・石器
17	待入碑	〃　〃　〃　〃	板碑	中世	板碑・五輪塔
18	待入Ⅰ	〃　〃　〃　〃　217	遺物包含地	奈良・平安	須恵器
19	〃　Ⅱ	〃　〃　〃　〃	〃	平安	赤褐色土器
20	〃　Ⅲ	〃　〃　〃　〃	〃	奈良・平安・中世	須恵器・土師器・赤褐色土器・珠洲系中世陶器
21	浅田	〃　〃 吉田字浅田15―１	〃	縄文	縄文土器・石器
22	羽中	〃　〃　〃 字羽中	〃	奈良・平安	須恵器
23	松ノ下Ⅰ	〃　〃　〃 字松ノ下	〃	〃	須恵器・赤褐色土器
24	〃　Ⅱ	〃　〃　〃　〃	〃	〃	須恵器
25	青崎	〃　下新城青崎字折沢	〃	縄文	縄文土器
26	蚕沢	〃　〃　小友字蚕沢	〃	縄文・奈良・平安	縄文土器・須恵器・土師器
27	箱館	〃　〃　〃 字箱館	城館	中世	郭・帯郭・段築

遺跡の位置と地形・地質

遺跡の位置

遺跡は秋田市北部の金足片田字鴻坂及び金足吉田字捨り沢に所在する。秋田市街から国道７号線を北上し、土崎を経て、飯島より県道112号線を金足黒川方面へ向う途中で、東北電力株式会社秋田変電所の北側、標高約30ｍの段丘上に位置する。

ＪＲ東日本奥羽本線追分駅からは東へ約2.6㎞、日本海からは約4.9㎞内陸へ入った地点である。

遺跡の地形・地質

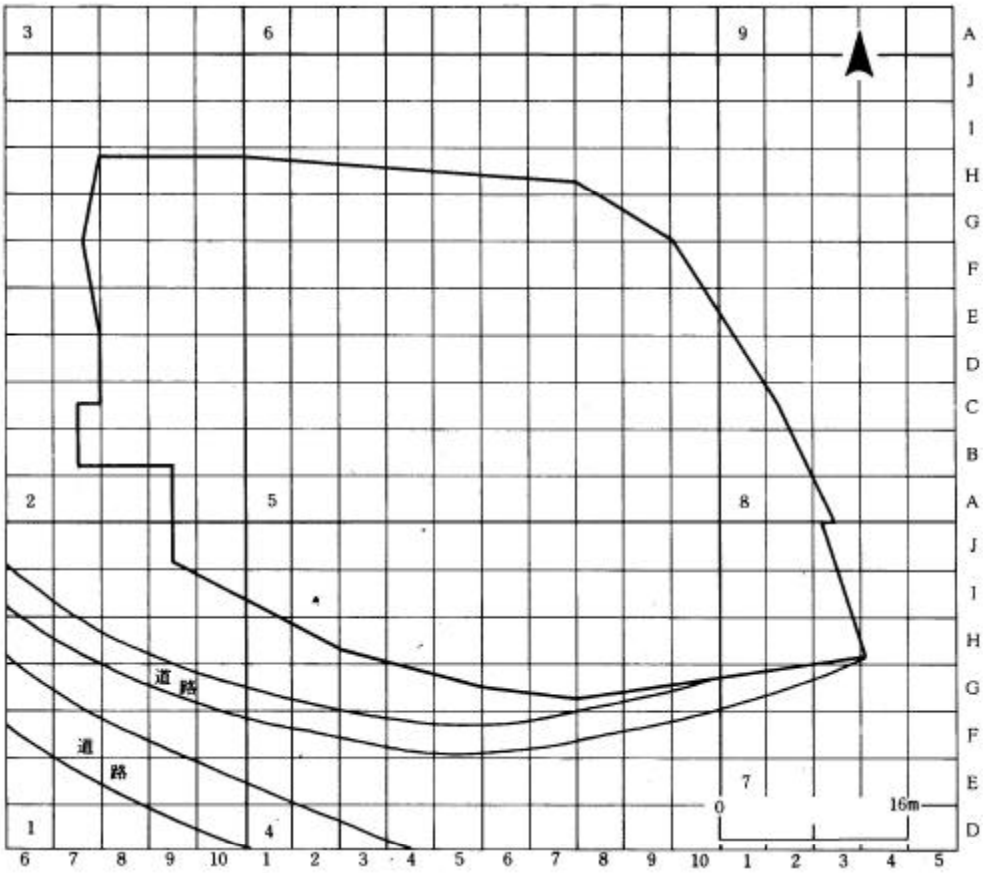
遺跡は上新城丘陵の西縁に位置する。この上新城丘陵は標高60～200ｍのかなり開析を受けた地形であり、谷密度は30～50／㎢、起伏量は100～150ｍ／㎢の地域が大部分を占めている。基盤は第三紀中新世の暗灰色泥岩（船川層）、鮮新世に属する青色砂質シルト（笹岡層）、同じく青灰色泥岩（天徳寺層）等からなっている。

遺跡の南側にあたる下小友・青崎町内付近は上・下２段の段丘が認められる。上段は標高35～40ｍで、表面は割合平坦である。構成層は最上部に粘土質火山灰層が１ｍ前後、次に径20～30㎝の礫を含む礫層が５～10ｍ堆積し、その下部は第三系である。この上段から約20ｍの比高をもって下段が狭く分布している。標高10～20ｍで、両町内はこの面に位置する。構成層は最大径10㎝の礫を含む砂礫層が５～10ｍ堆積し、その下部は第三系である。遺跡は両段丘の中間に位置する段丘面と考えられ、現水田面である沖積低地との比高差は約20ｍである。

遺跡の南側約1.6㎞には新城川が、北側約600ｍには馬踏川が流れている。新城川は俎山の南側に源を発し、日本海に注ぐ延長約20㎞の河川で、馬踏川は上新城丘陵に源を発し、八郎潟南部に注ぐ延長約20㎞の河川である。

遺跡の基本層序は、第１層が表土（耕作土）、第２層が黒色土（炭化物混入）、第３層が黄褐色土（炭化物・小礫混入）、第４層が暗黄色土（礫が混入する粘質土）で、第２、３層が遺物包含層、第４層が地山である。なお、遺跡は斜面であることから堆積土は上部が薄く、下部は厚く堆積している。

第３図　遺跡周辺の地形


3
6
9
2
5
8
1
4
7
道路
道路
0
16m
A
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
J
I
H
G
F
E
D
6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

第4図　グリッド配置図

遺構と遺物

検出遺構

調査の結果、土壙17基、土器埋設遺構1基が検出された。

土壙（第5、6図）

主に北斜面からの検出である。17基検出され、楕円形・小判形・円形・隅丸方形を呈するものである。楕円形で小形のものが多い。

出土遺物（第7図1～3）

1は深鉢形土器の口縁部である。口縁部が無文帯で、胴部は縄文地文のみの施文である。地文はＬＲ単節斜縄文（横位回転）である。2、3は数条の平行沈線で文様を作り出すものである。2は小形の壺形土器で、渦巻文・波状文を、3は深鉢形土器で、弧線文・直線文を主体に施している。

土器埋設遺構

1号土器埋設遺構（第6図）

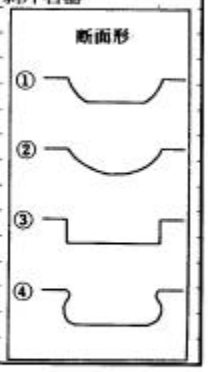
北斜面の下方で検出したもので、埋設していたものと考えられる。地山面で確認し、径約30㎝の掘り方に台付鉢形土器を正位に埋設していた。性格は不明である。

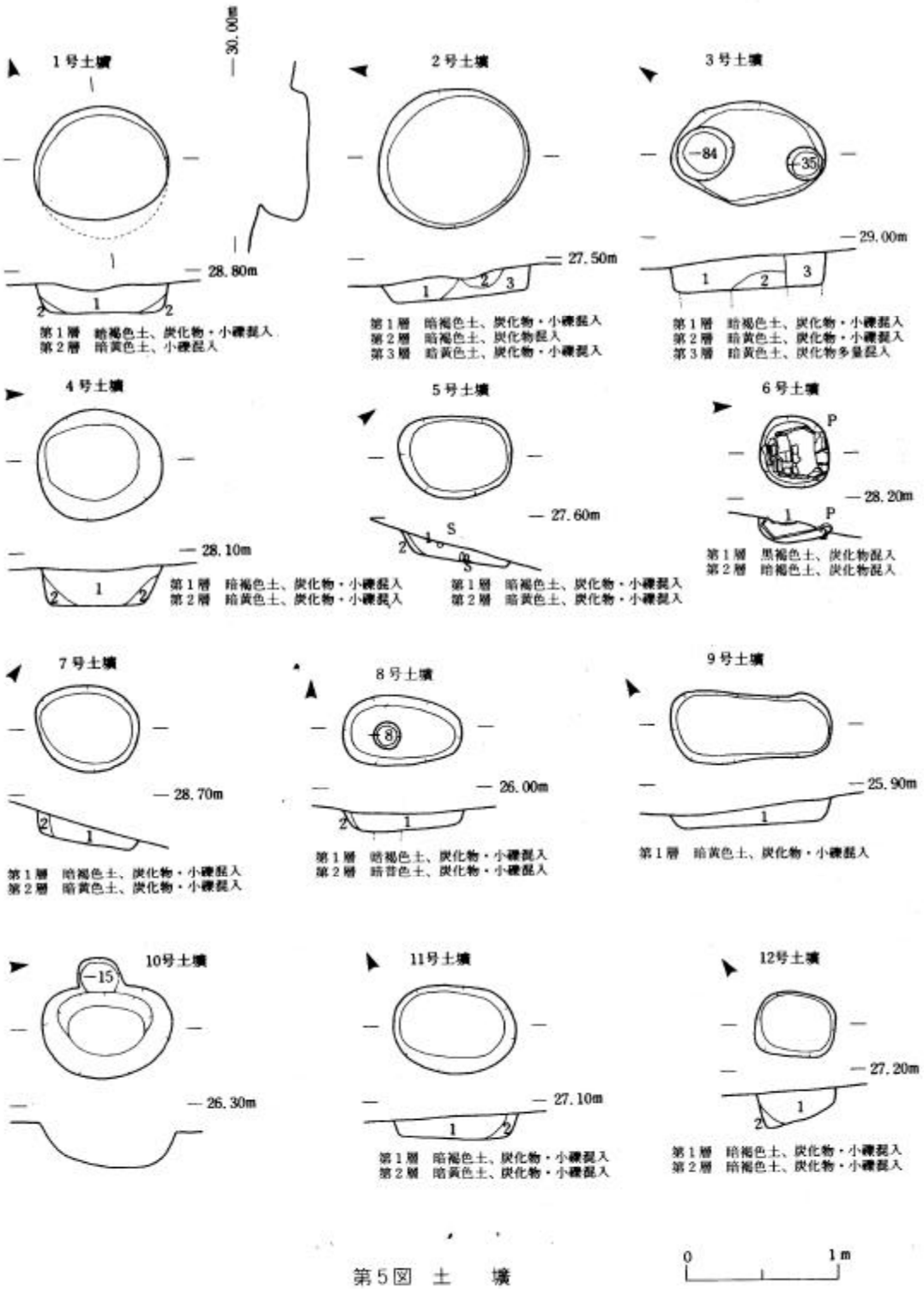
出土遺物（第7図4）

4は台付鉢形土器である。口縁部の平行沈線間に刺突列文を施すものである。口縁部文様帯の地文はＲＬ単節斜縄文（横位回転）で、体部は無文である。

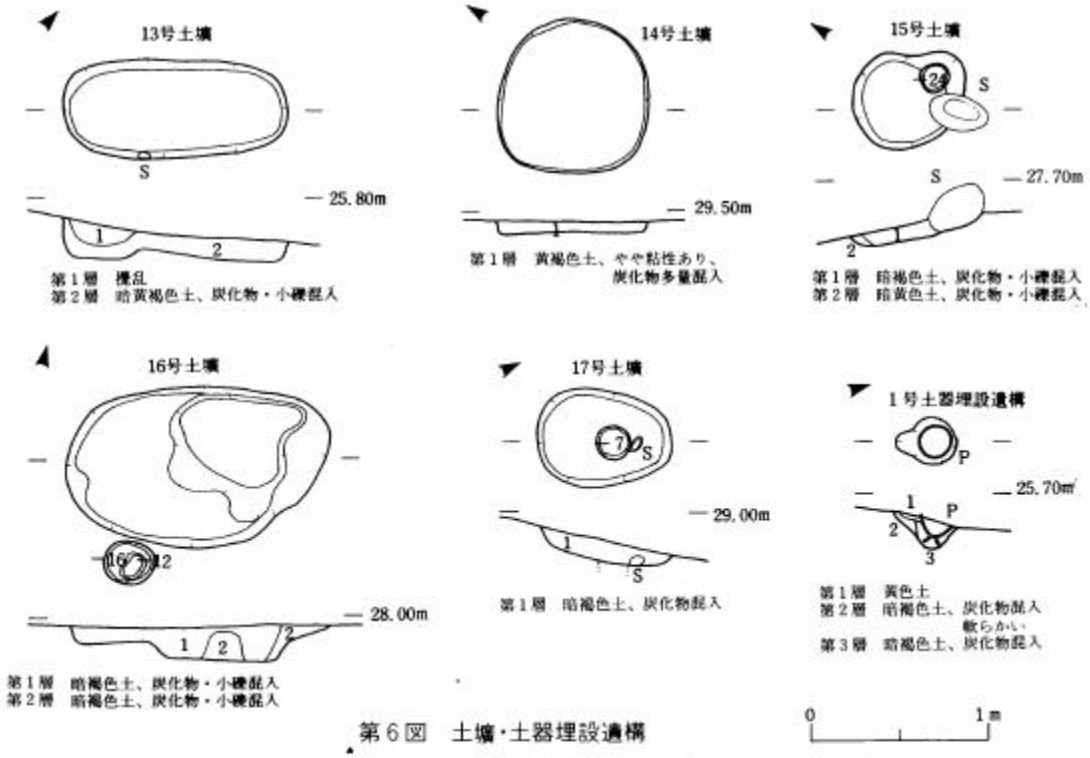
土壙一覧表

番号	規模（cm） 長軸	短軸	深さ	平面形	断面形	出土遺物
1	87	75	20	楕円形	4	縄文土器片
2	100	92	18	円形	1	縄文土器片
3	103	70	22	小判形	3	第7図1、縄文土器片・剥片石器
4	80	74	25	円形	1	第7図2、縄文後期
5	75	55	10	楕円形	1	
6	48	45	15	楕円形	2	第7図3、縄文後期
7	70	58	12	楕円形	1	縄文土器片
8	78	46	11	小判形	1	
9	106	43	12	小判形	1	
10	84	62	26	楕円形	2	
11	81	59	15	小判形	1	
12	53	43	20	隅丸方形	2	
13	125	55	13	小判形	1	
14	88	85	6	楕円形	2	
15	67	57	8	楕円形	1	
16	150	92	18	楕円形	1	剥片石器
17	76	56	12	楕円形	1	




1号土壙
30.00m
28.80m
第1層　暗褐色土、炭化物・小礫混入
第2層　暗黄色土、小礫混入
2号土壙
27.50m
第1層　暗褐色土、炭化物・小礫混入
第2層　暗褐色土、炭化物混入
第3層　暗黄色土、炭化物・小礫混入
3号土壙
84
35
29.00m
第1層　暗褐色土、炭化物・小礫混入
第2層　暗黄色土、炭化物・小礫混入
第3層　暗黄色土、炭化物多量混入
4号土壙
28.10m
第1層　暗褐色土、炭化物・小礫混入
第2層　暗黄色土、炭化物・小礫混入
5号土壙
27.60m
第1層　暗褐色土、炭化物・小礫混入
第2層　暗黄色土、炭化物・小礫混入
6号土壙
P
28.20m
第1層　黒褐色土、炭化物混入
第2層　暗褐色土、炭化物混入
7号土壙
28.70m
第1層　暗褐色土、炭化物・小礫混入
第2層　暗黄色土、炭化物・小礫混入
8号土壙
8
26.00m
第1層　暗褐色土、炭化物・小礫混入
第2層　暗黄色土、炭化物・小礫混入
9号土壙
25.90m
第1層　暗黄色土、炭化物・小礫混入
10号土壙
15
26.30m
11号土壙
27.10m
第1層　暗褐色土、炭化物・小礫混入
第2層　暗黄色土、炭化物・小礫混入
12号土壙
27.20m
第1層　暗褐色土、炭化物・小礫混入
第2層　暗褐色土、炭化物・小礫混入
0
1m

第5図　土　壙



第６図　土壙・土器埋設遺構

出　土　遺　物

土器・土製品・石器等が出土した。

土器

大部分は遺物包含層である第２、３層からの出土であるが、層位的な区別は見られない。また、第１層（表土）及び表採のものも数点ある。

以下、遺構内・外出土土器を施文様により第Ⅰ～Ⅲ群に分類した。

第Ⅰ群土器（第７図２～４、第８図５～22）

沈線文を主体とするものである。

１類（５～７）

磨消縄文を施すものである。磨消部分を沈線で区画するもので、全て深鉢形土器の破片である。地文は５がＬＲ単節斜縄文（縦位回転）、６がＲＬ単節斜縄文（縦位回転）、７がＬＲ単節斜縄文（横位回転）である。

２類（８）

粘土紐を貼り付けているものである。８は深鉢形土器の口縁部である。口縁部に粘土紐を鉢巻状に貼り付け、この粘土紐の両側は沈線で調整されている。４単位構成と考えられ、鉢巻状に貼り付

けられた粘土紐貼付文を連絡するように平行沈線が巡る。胴部地文は撚糸文である。

3類（2、3、9～22）

沈線及び平行沈線で文様を作り出すもので、地文は無文である。2は小形の壺形土器で、口縁部が欠損する。頸部に平行沈線文、体部に渦巻文・波状文を施し、「ノ」・「S」字状文で沈線を連絡している。3は平縁口縁で、口縁部が外反する深鉢形土器である。頸部と胴下部に平行沈線が巡り、その中に3～4条の平行沈線を垂下させ、これに弧線文を対峙させている。また、この主文様を連絡するように平行沈線文の内側に弧線文を施している。9～21は深鉢形土器、22は壺形土器で、数条の平行沈線による直線文・曲線文・弧線文等で文様を作り出している。

4類（4）

平行沈線間に刺突列文を施すものである。4は台付鉢形土器で、口縁上部を欠く。口縁部に平行沈線を巡らし、その中に6～8段の刺突列文を施している。口縁部文様はＲＬ単節斜縄文（横位回転）施文後であり、体部は無文である。

第Ⅱ群土器（第8図23～25）

平行沈線文及び列点文を施すものである。

23、25は甕形土器、24は壺形土器である。口縁部に数条の平行沈線が巡り、25には列点文が認められる。地文は全てＬＲ単節斜縄文（横位回転）である。23は口縁部上部にも縄文が施され、25は刷毛目調整痕が認められる。

第Ⅲ群土器（第7図1、第8図26～35）

地文のみの土器、底部を一括した。

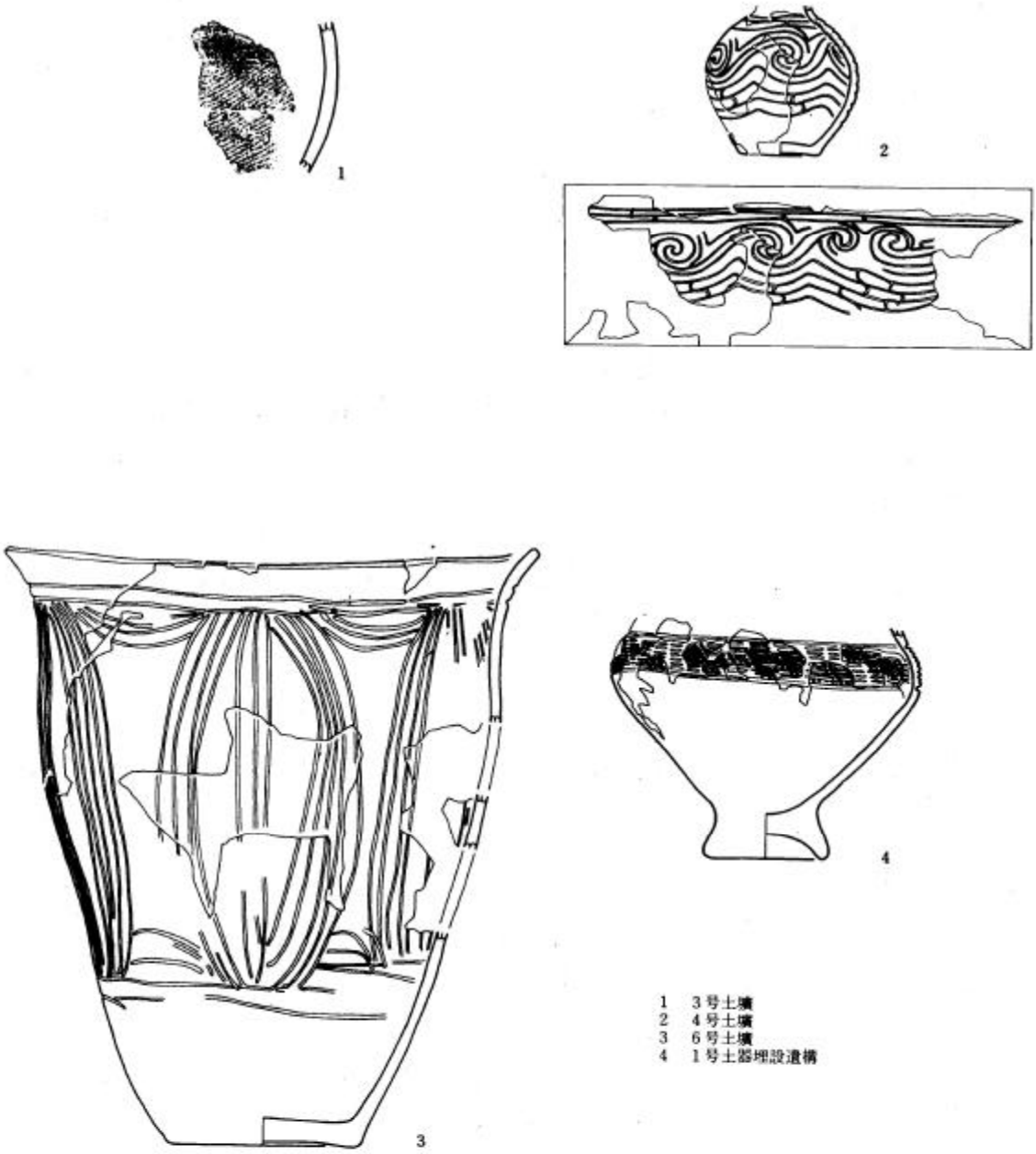
1、26～27はＬＲ単節斜縄文（横位回転）を施すもので、全て深鉢形土器である。26は口唇部にも縄文が施され、1、27、28の口縁部は無文帯である。29は前々段多条のＬＲ単節斜縄文（横位回転）と考えられる深鉢形土器である。30～33は撚糸文を施すもので、深鉢形土器である。34は条痕文を施すものである。条痕は器面に対して縦位に施すもので、深鉢形土器である。35は底部に網代痕をもつものである。

土製品（第9図1）

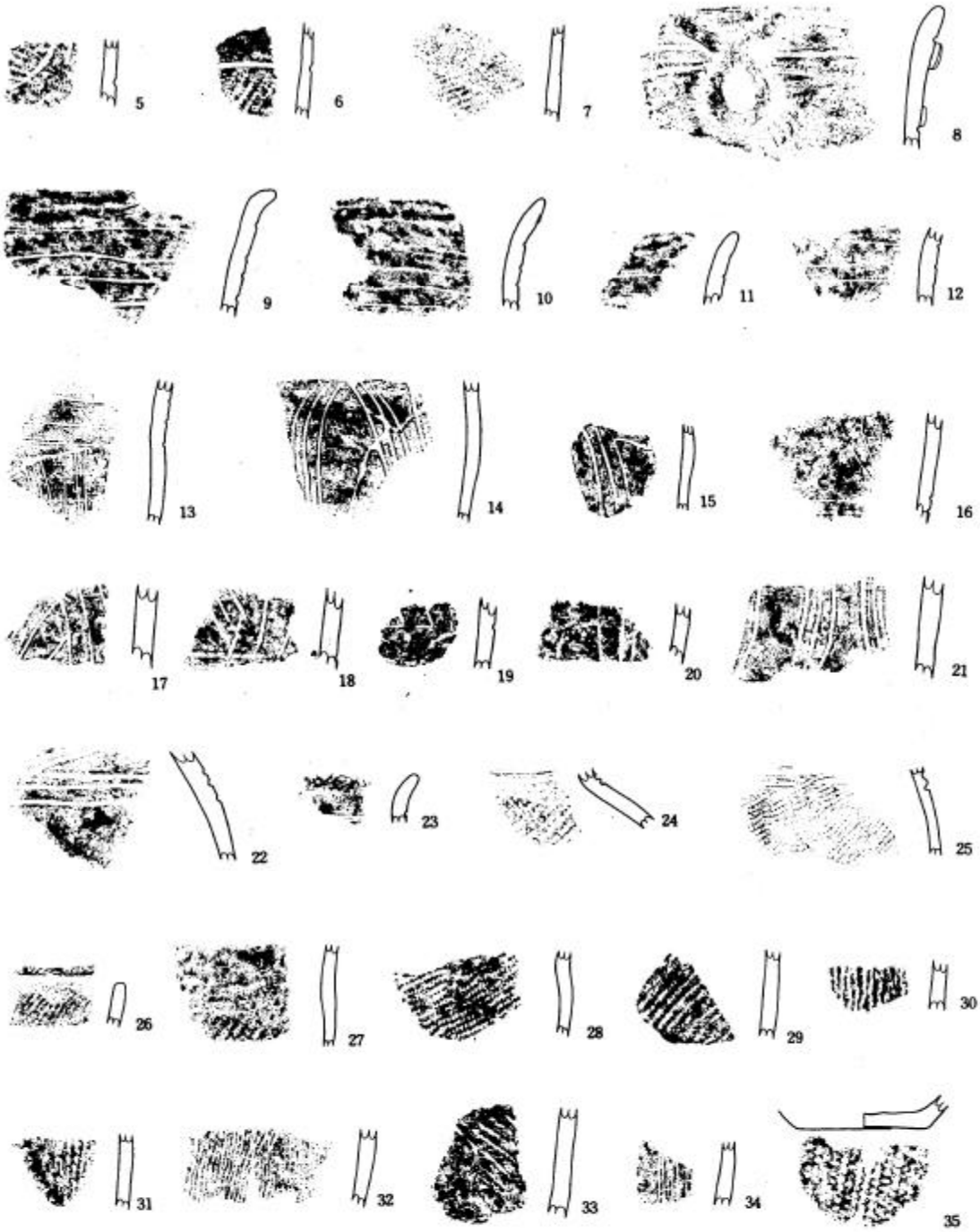
1は土偶の脚部である。

石器（第9図1～5）

1は石鏃である。茎部は加工されていない。石質は硬質頁岩である。2は石匙である。縦形で、両面加工を施している。石質は硬質頁岩である。3は小形磨製石斧である。刃部の一部が欠けている。石質は凝灰岩である。4は磨石である。両面を磨面とするもので、側面には敲打痕が認められる。5は石皿である。大形の石皿と推測される。石質は安山岩である。



第7図　遺構内出土土器



第8図　遺構外出土土器

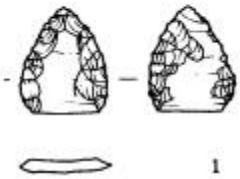
0　10cm

1

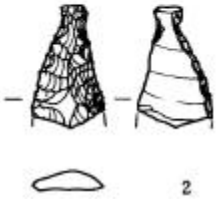
1　遺構外

0　5cm

土製品



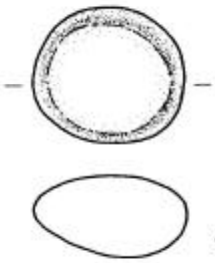
1



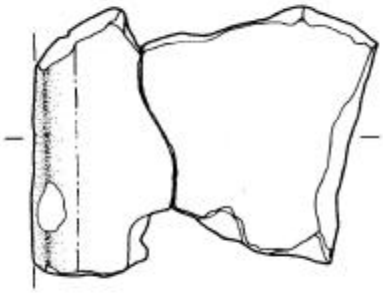
2

3

0　5cm



4



5

1　ピット
2～5　遺構外

石　器

第９図　遺構内・外出土土製品・石器

0　10cm

ま　と　め

梵天長根遺跡は、上新城丘陵の西縁で北側へ小さく突出する台地上に位置する。平担面は少なく、北側が比較的急な勾配を呈し、遺構・遺物は主にこの北斜面からの検出である。以下、遺構と遺物について述べてみたい。

遺構は、土壙17基、土器埋設遺構1基が検出された。土壙の形態は、平面形が楕円形を呈するものが9基（1、5、6、7、10、14、15、16、17号）、小判形を呈するものが5基（3、8、9、11、13号）、円形を呈するものが2基（2、4号）、隅丸方形を呈するものが1基（12号）で、楕円形・小判形を呈するものが多い。断面形は、底面が平担で、壁が底面よりほぼ垂直に立ち上がるものが多い。規模は、長軸53～125㎝、短軸43～92㎝で、長軸70～100㎝、短軸50～80㎝のものが多い。確認面からの深さは、6～26㎝で、10～20㎝ものが多い。出土遺物は、4号土壙より小形壺形土器、6号土壙より深鉢形土器がつぶれた状態で出土し、他は土器片・石器剥片数点の出土である。時期決定のできる土壙は前述の2基のみで、他の土壙については時期決定の決め手がない。しかし、土壙が群をなしていること、類似する形態の土壙があること、本遺跡で主体をなす土器が土壙出土土器と同時期であることなどから同一時期の可能性が強く、縄文時代後期前葉と考えられる。

本遺跡の土壙とほぼ同時期で土壙群が検出されている遺跡の類例としては、由利郡東由利町「片符沢遺跡Ⅰ」(註1)、秋田市「大杉沢遺跡」(註2)、能代市「真壁地遺跡」(註3)等があげられる。片符沢遺跡Ⅰは、台地の東側に土壙群が検出され、性格については、積極的な裏付けはないが総合的判断により土壙墓としての要素が多いことを示唆している。大杉沢遺跡、真壁地遺跡D地区は、北西方向へ突出する舌状台地の縁辺部に土壙群が検出されている。性格については触れていないが、本遺跡の立地と近似する。また、3遺跡とも住居跡は検出されていない。本遺跡の土壙群も形態・規模・検出状況等から上記の遺跡と類似し、積極的根拠は欠くが土壙墓としての性格が考えられる。しかし、あくまでも推測の域であり、今後の調査例を待って検討する必要がある。

出土遺物は、土器・土製品・石器等である。土器は施文様から3群に大別した。第Ⅰ群土器は、沈線文を主体に文様を構成するもので、4類に細分した。1類は磨消縄文を施すもので、磨消部分を沈線で区画する。全て深鉢形土器の破片で、遺構外からの出土である。2類は口縁部に鉢巻状の粘土紐を貼り付け、この粘土紐の両側を沈線で調整するものである。4単位構成と考えられ、鉢巻状の粘土紐貼付文を連絡するように平行沈線が巡る。深鉢形土器の破片で、同一個体の破片が2点遺構外から出土している。3類は無文地に沈線及び平行沈線で文様を作り出すものである。文様は直線文・曲線文・渦巻文・波状文・弧状文等が施される。深鉢形土器・小形壺形土器・壺形土器等が、土壙及び遺構外から出土している。4類は平行沈線間に刺突列文を施すものである。口縁部文様帯には縄文地文が施されるが、体部は無文である。台付鉢形土器で、埋設土器と考えられる。

第Ⅱ群土器は、平行沈線文及び列点文を施すものである。甕形土器・壺形土器の破片で、遺構外からの出土である。第Ⅲ群土器は、口縁部・胴部に地文を施すものと、底部を一括した。全て深鉢形土器の破片で、土壙及び遺構外からの出土である。

第Ⅰ群土器は、能代市「真壁地遺跡」(註4)、鹿角市「大湯環状列石周辺遺跡」(註5)、同市「高屋館跡」(註6)等に類例を見ることができる。3類が主体で、十腰内Ⅰ式土器に併行すると考えられ、縄文時代後期前葉に位置づけられる。2類は青森県上北郡六ケ所村「大石平遺跡」(註7)に類例を見ることができる。十腰内Ⅰ式土器を3段階に分類し、その中の1段階に位置づけている。本遺跡1、2類は3類よりは古いと考えられる。4類は他に類例を見ることができず時期不明であるが、遺構・遺物等の検出状況から本群に含めた。第Ⅱ群土器は、秋田市「地蔵田B遺跡」(註8)出土土器と類似する。弥生時代前期の土器と考えられる。甕形土器を口縁部文様の変化により30数タイプに分類しているが、この中の2つのタイプに相当する。第Ⅲ群土器は、地文のみのものであるが、撚糸文・条痕文等の土器は縄文時代後期に属するものである。

以上、本遺跡は縄文時代後期前葉を中心とする遺跡であることが判明した。遺構については集落の一部分の調査ということもあって判然としないが、土壙墓としての性格が考えられる。本遺跡の南東100mには「青崎遺跡」、北東900mには本遺跡第Ⅰ群土器3類と類似する土器が出土している「片田遺跡」(註9)が所在する。また、本遺跡の南側は変電所及び道路建設により原形を留めていないが、遺跡の存在(註10)が予想された地域であったと推測される。今後は当該期の調査例と、周辺遺跡の調査を含めて遺跡の性格を再考する必要がある。

註1.「片符沢遺跡Ⅰ発掘調査報告書」 秋田県文化財調査報告書第72集　秋田県教育委員会　1980年3月

註2.「大杉沢遺跡発掘調査報告書」 秋田県文化財調査報告書第151集　秋田県教育委員会　1987年3月

註3.「真壁地遺跡発掘調査報告書」 秋田県文化財調査報告書第102集　秋田県教育委員会　1983年3月

註4. 註3と同じ

註5.「大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書（6）」 鹿角市文化財調査資料38　鹿角市教育委員会　1990年3月

註6.「西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ　高屋館跡」 秋田県文化財調査報告書第198集　秋田県教育委員会　1990年3月

註7.「大石平遺跡発掘調査報告書」 青森県埋蔵文化財調査報告書第90集　青森県教育委員会　1985年3月

註8.「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書　地蔵田B遺跡」 秋田市教育委員会　1986年3月

註9.「秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書」 秋田市教育委員会　1989年3月

註10. 註9と同じ

参 考 文 献

秋田県教育委員会:「塚の下遺跡発掘調査報告書」 秋田県文化財調査報告書第61集 1979年3月

秋田県教育委員会:「八木遺跡発掘調査報告書」 秋田県文化財調査報告書第181集 1989年3月

秋田県教育委員会:「竜毛沢館跡発掘調査報告書」 秋田県文化財調査報告書第188集 1990年3月

秋田市教育委員会:「小阿地下堤遺跡・坂ノ上遺跡発掘調査報告書」 1976年3月

秋田市教育委員会:「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 坂ノ上F遺跡」 1985年3月

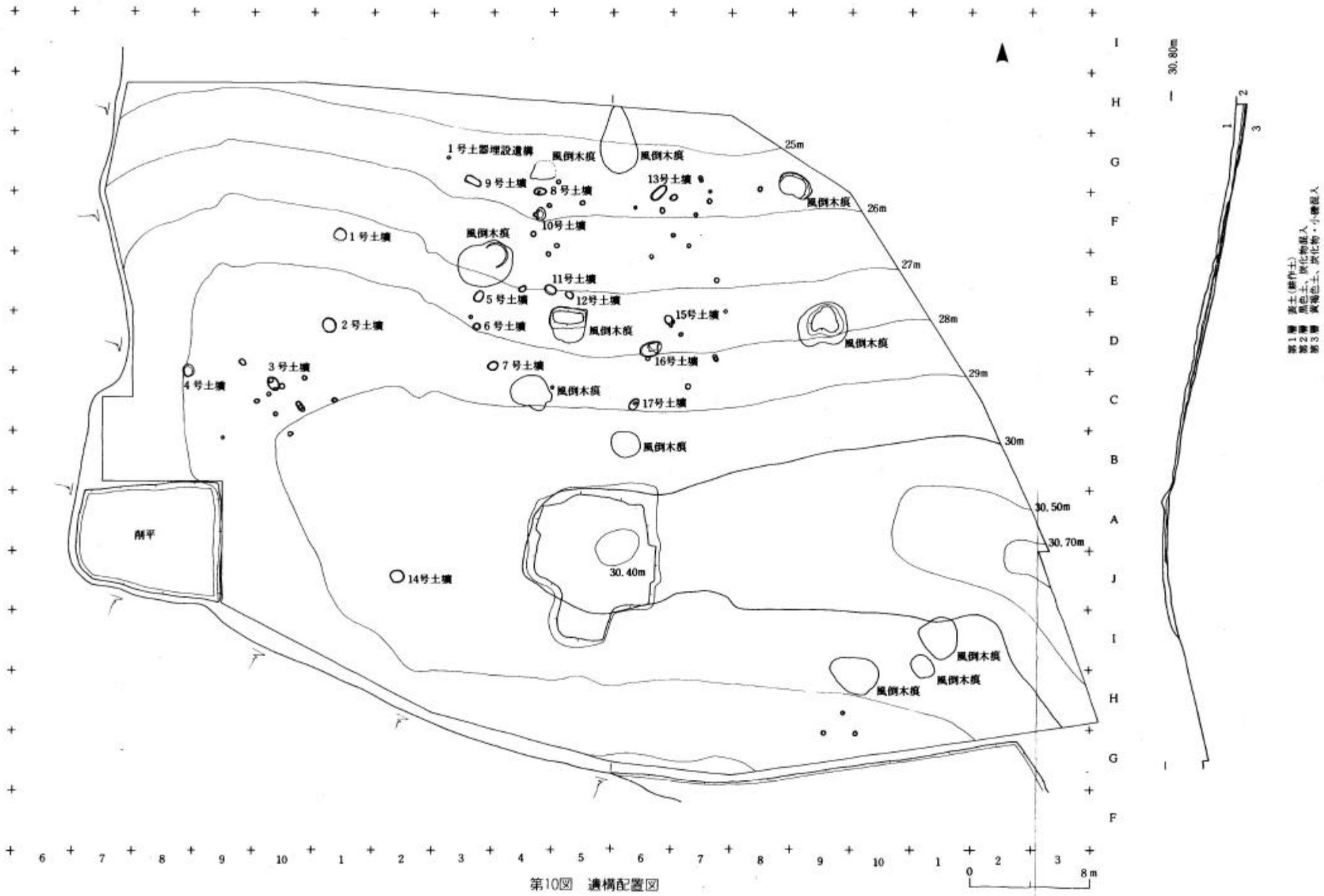
(財)岩手県文化財振興事業団埋蔵文化財センター:「青ノ久保遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第118集 1987年12月

高橋忠彦:「秋田県の縄文時代後期の土器」 秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第4号 秋田県埋蔵文化財センター 1989年8月

八戸市教育委員会:「八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 丹後谷地遺跡」 八戸市埋蔵文化財調査報告書第15集 1986年3月

本間 宏:「東北地方における縄文後期前葉土器群の実態」 よねしろ考古 第1号 よねしろ考古学研究会 1985年7月

本間 宏:「縄文時代後期初頭土器群の研究(1) 東北地方を中心に」 よねしろ考古 第3号 よねしろ考古学研究会 1987年8月


1号土器埋設遺構
風倒木痕
9号土壙
8号土壙
13号土壙
10号土壙
1号土壙
11号土壙
5号土壙
12号土壙
2号土壙
6号土壙
15号土壙
16号土壙
3号土壙
4号土壙
7号土壙
17号土壙
14号土壙
削平
25m
26m
27m
28m
29m
30m
30.50m
30.70m
30.40m
30.80m
第1層 表土(耕作土)
第2層 黒色土、炭化物混入
第3層 黄褐色土、炭化物・小礫混入
0
8m

第10図　遺構配置図

遺跡遠景（北西→）

遺跡近景（北→）

図版 1

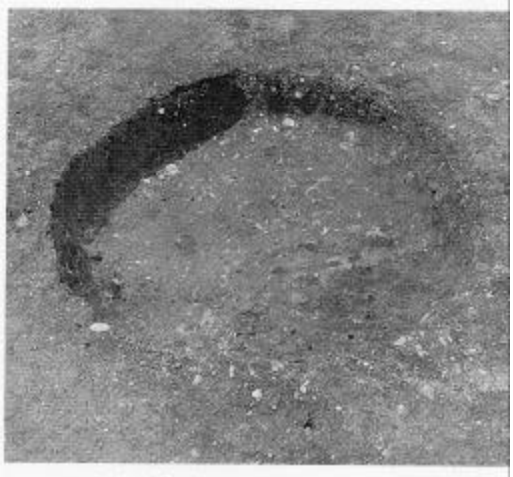
調査前（東→）

遺跡全景（東→）

図版 2

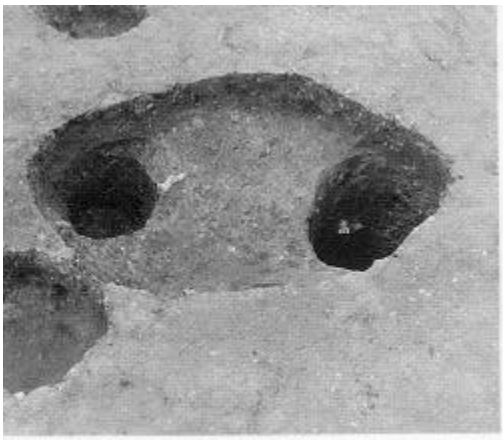
土壙群（北東→）

1号土壙（北東→）



2号土壙（東→）

図版 3



3号土壙（北東→）

4号土壙（西→）

5号土壙（北西→）

6号土壙（東→）

6号土壙遺物出土状況（東→）

7号土壙（北西→）

図版4

8 号土壙（北→）

9 号土壙（北→）

10号土壙（西→）

11号土壙（北→）

12号土壙（北→）

13号土壙（北→）

14号土壙（南西→）

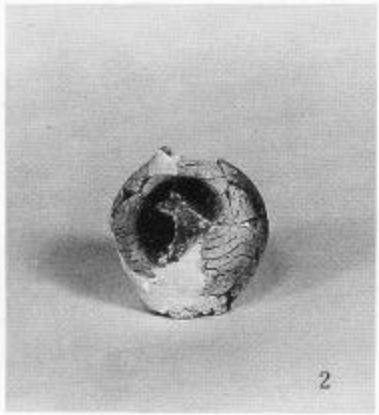
15号土壙（北→）

16号土壙（北→）

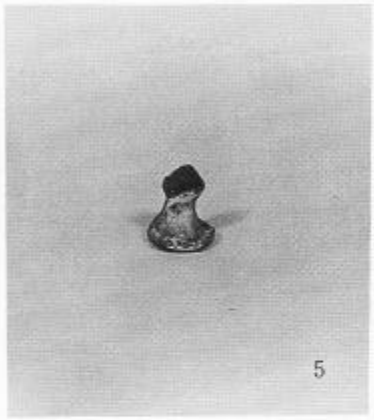
17号土壙（北西→）

1号土器埋設遺構（東→）

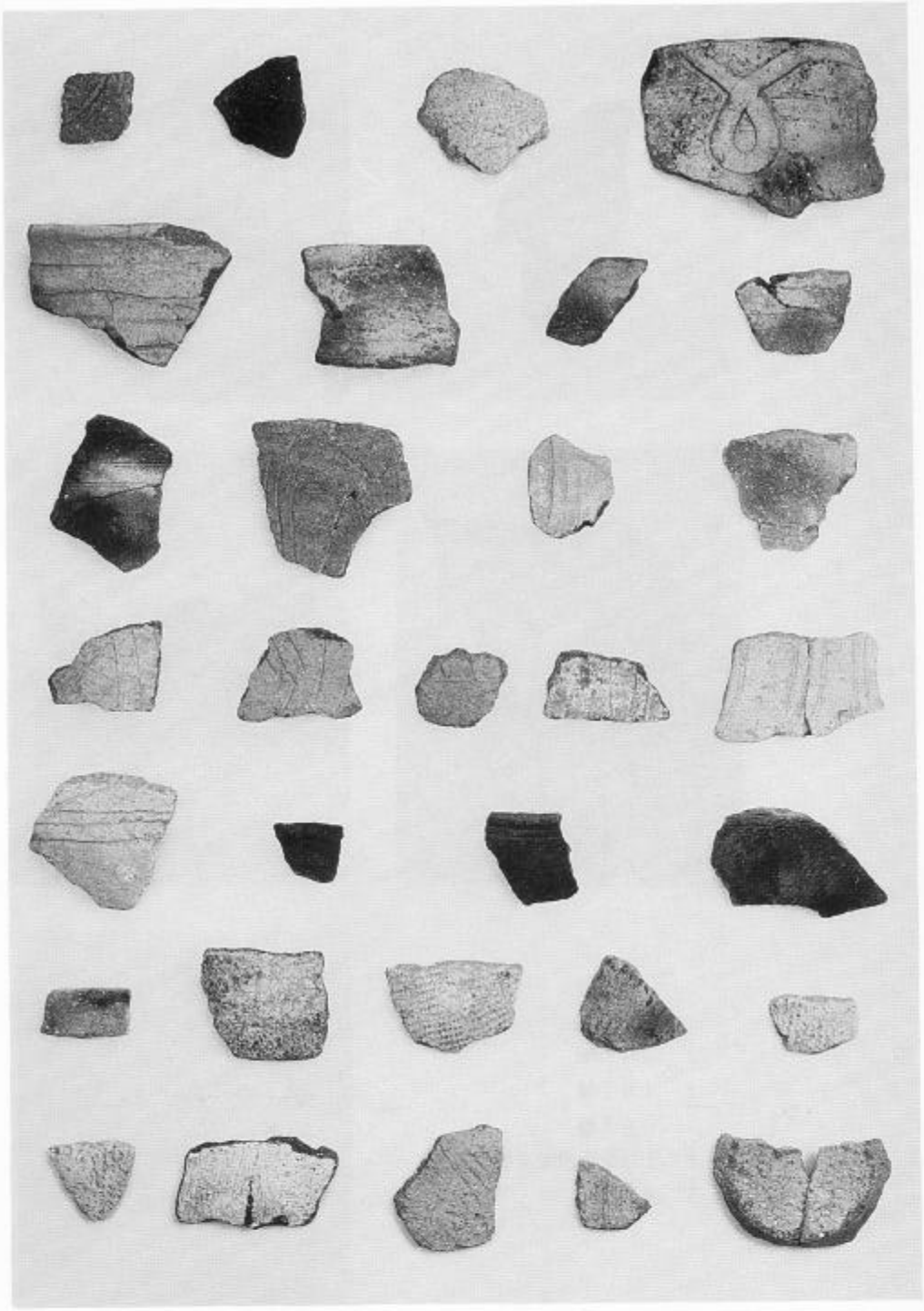
図版 6



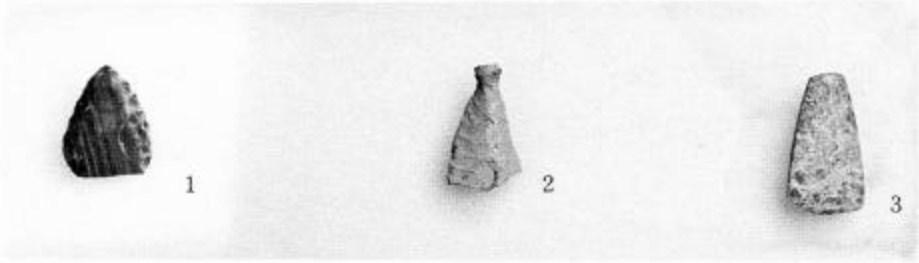
1　3号土壙
2　4号土壙
3　6号土壙
4　1号土器埋設遺構
5　遺構外

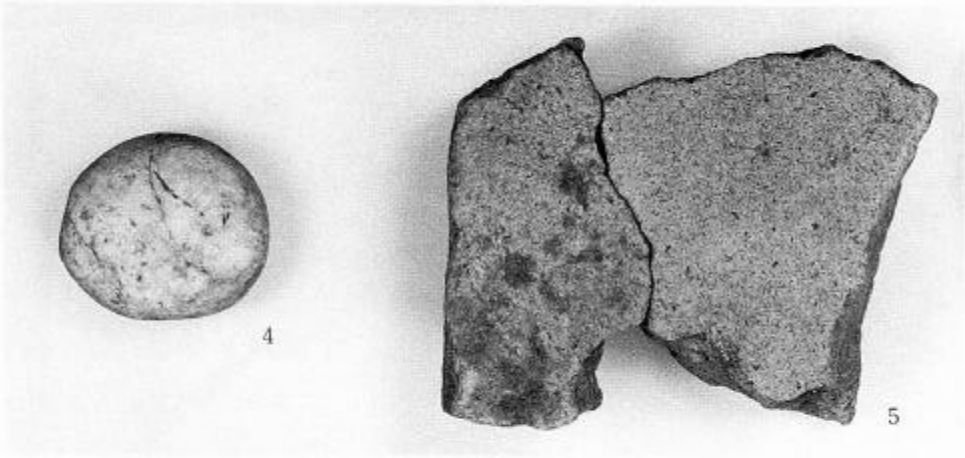


図版7　土器・土製品



図版８　遺構外出土土器





1　　ピット
2～5　遺構外

図版9　石　　器

秋田市
梵　天　長　根　遺　跡
—秋田変電所増設に伴う緊急発掘調査報告書—

平成3年3月

発行　東北電力株式会社秋田支店
　　秋田市教育委員会
印刷　株式会社三戸印刷所